



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

5

# 株式会社野辺地出版会の経営改革

東京にある教育専門の出版業を営む株式会社野辺地出版会は、青森県弘前市出身の大湊氏が戦後昭和 25 年から東京下町で創業した会社であった。最初は小さな雑誌を出版していたが、その後は小中学生用の参考書や楽しみながら学べる教材を販売してきた。会社の経営は現在のところ安定しているので、大湊氏はこの時期に次の世代に経営を任せたいと考えた。子供に恵まれなかった大湊氏は、2 代目社長として、以前から知り合いだった下北氏に依頼した。下北氏は大湊氏と同郷だったが、大学時代を東京で過ごし、その後大手コンピュータメーカーに勤め、早期定年後は関係会社の社長を務めていた。65 歳を機に関係会社社長を辞し、生まれ故郷の弘前に戻ろうとしていたところを、大湊氏が引き止めて 2 代目の社長を依頼したものであった。

10

15

## 野辺地出版会のビジネス

野辺地出版会は、創業者の大湊氏が、戦後復興のためには教育しかないという志の下で設立した企業であった。受験戦争に日本国中が突入していく中で大湊氏は、本来の教育とは詰め込み教育ではなく、自分の手を動かし頭を使い、感性も伴って、気づいていくものであるという信念のもとで出版を行ってきた。

20

事業の種類は参考書の出版や教員向けの研究会事業であったが、大湊氏は常に「心の豊かさ」と「教育」のあるべき姿をまず、信念として掲げて事業を行ってきた。その信念はいまや会社の文化ともいえるものとなっており、社長の口癖を真似する社員も数多くいた。

25

事業は参考書の出版、教材販売、教員のためのイベントなどを営んでいた。それぞれの事業は、教科書を基盤にした出版物の発行であったため、日用品のようなテレビコマーシャルなどを

.....  
本ケースは慶應義塾大学商学部教授横田絵理がクラス討議の目的のため、同大学大学院経営管理研究科教授高木晴夫の監修の下、作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 横田絵理、高木晴夫（2009 年 3 月作成）